

シヤチハタ、エヴィクサー、サイバートラスト、来歴検証サービス「SIGNED SOUND」における C2PA 署名主体確認を実装

～配信・放送後の音声コンテンツからも登録原本との一致や、誰がいつ署名したかの確認が可能に～



シヤチハタ株式会社（本社：愛知県名古屋市西区、代表取締役社長：舟橋 正剛、以下、シヤチハタ）、エヴィクサー株式会社（本社：東京都中央区、代表取締役社長 CEO：瀧川 淳、以下、エヴィクサー）、サイバートラスト株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長：北村 裕司、以下、サイバートラスト）の3社は、シヤチハタのコンテンツ来歴検証サービス「**SIGNED SOUND（音のしるし）**」において、音声コンテンツに記録される来歴情報に、**誰がいつ署名したかを確認できる仕組み**を実装したことを発表します。

本機能により、ディープフェイクや偽・誤情報の拡散リスクに対し、配信元が自社の音声コンテンツの真正性を国際標準「**C2PA（Coalition for Content Provenance and Authenticity）**」でより確実に証明できる環境を提供します。

3社は、SIGNED SOUND にエヴィクサーの音響識別技術「C2PA ソフトバインディング」と、サイバートラストの電子証明書「iTrust C2PA 用証明書」を連携し、配信元が自社の正規音声コンテンツに来歴の「しるし」を残し、視聴者や二次拡散先がいつでも登録原本と照合できる機能を実現しました。「記録された署名主体・署名時刻・原本との対応関係」という来歴情報が、配信元にとって、安心して正規コンテンツを届けるための土台になります。エヴィクサーの音響電子透かしと音響フィンガープリントにより、配信元が送り出す音声・動画コンテンツについて、配信後のコンテンツからでも登録原本を結び付け直して照会することが可能となりました（C2PA のソフトバインディング）。この来歴情報には、署名を行った組織や署名された日時などの情報が記録されており、サイバートラストの電子証明書とタイムスタンプによって、その真正性が確認できます。

なお SIGNED SOUND が確認できるのは、登録された原本との照合結果および記録された来歴情報となり、C2PA 署名・タイムスタンプを含め、コンテンツ内容の真実性、発信者の権限または法的真正性を保証するものではありません。

背景

生成 AI の急速な普及と並行して、ディープフェイクの悪用や偽・誤情報の拡散が深刻な社会課題となっています。自治体の公式発表、報道機関の映像、企業の広報・IR コンテンツは、一部を切り取られたり、順序を入れ替えられたり、合成音声を挿入されたりした偽情報を拡散されるリスクにさらされています。

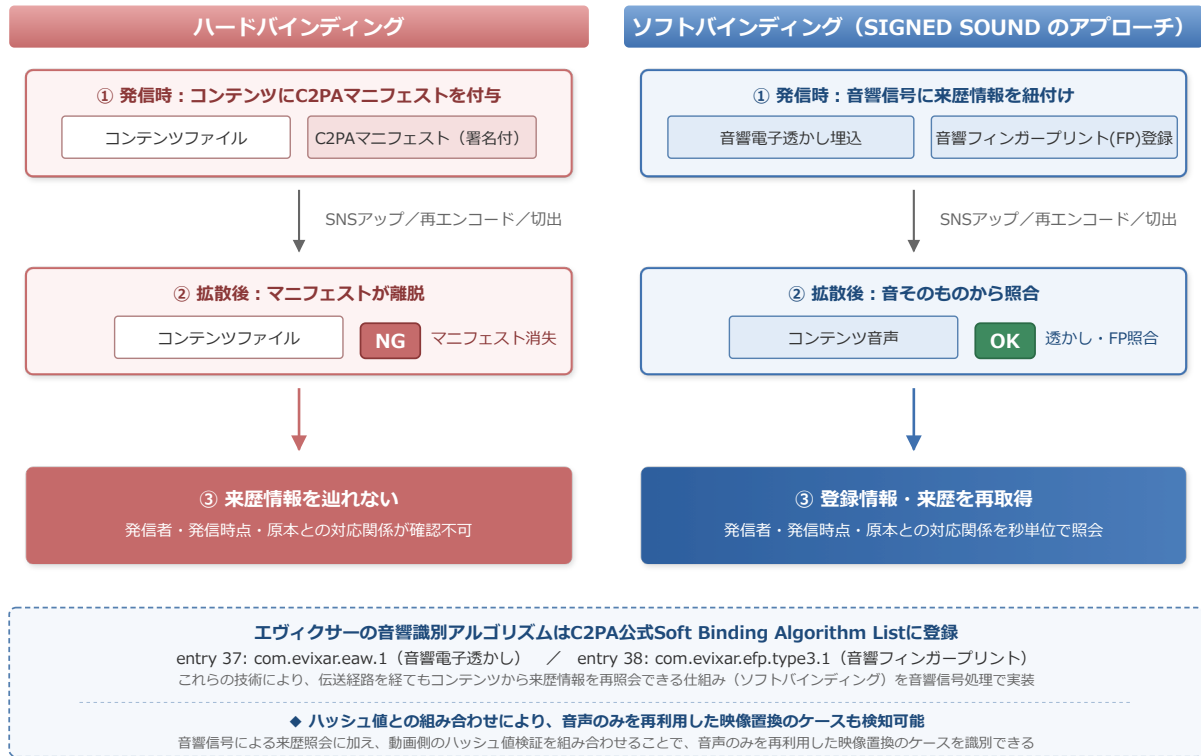
これに対し、コンテンツの出所と来歴を検証可能にする国際標準「C2PA」の活用が進んでいます。しかし従来の仕組みでは来歴情報（C2PA マニフェスト）はファイルに付随して運ばれるため、SNS への再アップロードや変換の過程で外れてしまうことが課題となっていました。C2PA はこれに備え、コンテンツ自体から来歴を照会し直す仕組み「**ソフトバインディング**」を標準仕様に定めています。SIGNED SOUND は、このソフトバインディングをエヴィクサーの音響識別技術で実装し、そのうえで、記録された来歴情報の署名主体を、サイバートラストの電子証明書によって確認できるようにしています。

C2PA のソフトバインディングと、各社の役割

C2PA のソフトバインディングと署名主体

C2PA には、来歴情報をコンテンツに結び付ける方式として、ファイルに直接埋め込むハードバインディングと、コンテンツの微量から照会するソフトバインディングがあります。SIGNED SOUND は、エヴィクサーの音響電子透かしと音響フィンガープリントを Soft Binding Algorithm List 登録アルゴリズムとして用い、来歴情報がコンテンツから切り離された後でも音声から照会できるようにしています。SIGNED SOUND の来歴は、**音響電子透かし・音響フィンガープリント・C2PA 署名の3層**で構成され、その署名層を担うのが、サイバートラストの電子証明書「iTrust C2PA 用証明書」となります。

ハードバインディングとソフトバインディングの対比



C2PA仕様等を基にエヴィクサーで独自作成

C2PA 署名を支える各社の役割

01 - INTEGRATION シヤチハタ

SIGNED SOUND としての統合・運営

上記をコンテンツ来歴検証サービス

「SIGNED SOUND」として統合し、来歴証明書の発行主体およびプラットフォーム運営を担う。配信元は配信前にコンテンツへ来歴情報を付与し、配信後は登録原本との対応関係を照会できる。

02 - IDENTIFICATION エヴィクサー

音響識別技術によるソフトバインディング

音声トラックに知覚されにくい電子透かしを埋め込み、音響フィンガープリントを抽出。両アルゴリズムは C2PA 公式 Soft Binding Algorithm List に登録済で、再エンコード・放送・空間伝搬を経ても照会できる設計。

03 - TRUST SERVICE サイバートラスト

来歴情報の信頼性確保

2024年2月に C2PA へ参画。SIGNED SOUND では「iTrust C2PA 用証明書」を活用し、タイムスタンプとあわせて来歴情報の発行組織と日時を信頼性をもって確認できる。25年以上の電子認証の知見を活用。

今後の展望・開発の経緯・備考・会社概要

今後の展望

3社は、こうした C2PA 署名による来歴検証の仕組みを、自治体や報道機関、企業の広報・IR といった配信元に広げ、偽・誤情報の抑止とデジタルコンテンツの信頼性向上に取り組んでまいります。また、外部の開発者やパートナーが自社サービスに組み込むよう、API・SDK の提供も今後検討します。

SIGNED SOUND — 開発・展開の経緯

2023年10月30日	G7広島AIプロセス 国際行動規範：電子透かし・コンテンツ認証技術の開発・普及を明示（第7条）
2023年12月26日	音響透かし・フィンガープリントを用いたコンテンツ保護サービス「EAF - Evixar Audio Forensics」を開発、試用プログラム開始
2024年7月2日	総務省「インターネット上の偽・誤情報等への対策技術の開発・実証事業」令和6年度採択
2025年6月30日	総務省「インターネット上の偽・誤情報等への対策技術の開発・実証事業」令和7年度採択（二期連続）
2026年5月4日	C2PA ソフトバインディングアルゴリズムとして国内初登録（EAW・EFP）
2026年7月7日	SIGNED SOUND（音のしるし）正式提供開始
2026年9月2日	C2PA 署名主体確認機能を実装（本発表）

備考

- SIGNED SOUND について：[signed-sound.jp](#)
- C2PA とは：「Coalition for Content Provenance and Authenticity」の略で、デジタルコンテンツの出所や真正性を検証可能にする技術標準を策定する国際的な業界連合。[c2pa.org](#)
- 本サービスは、エヴィクサーの音響識別アルゴリズムが C2PA 公式 Soft Binding Algorithm List に登録（識別子：com.evixar.eaw.1 [entry 37] / com.evixar.efp.type3.1 [entry 38]）されていることを利用するもの。本登録はアルゴリズム単位の登録であり、SIGNED SOUND が「C2PA 準拠製品」認定を取得したことを示すものではありません。また、本サービスが提供するのはコンテンツの来歴・真正性の参照情報であり、電子署名法上の真正な成立の推定を当然に生じさせるものではなく、認定タイムスタンプと同等の法的効力を保証するものではありません。
- iTrust C2PA 用証明書：[cybertrust.co.jp/c2pa/](#)

会社概要

シャチハタ株式会社

[shachihata.co.jp](#)

電子印鑑・電子決裁「Shachihata Cloud」（導入 116 万件超・ISO/IEC 27001 取得）等を展開。事業創出本部でコンテンツ来歴検証の新規トラスト事業に取り組む。

代表：舟橋 正剛

名古屋市中区天塚町 4-69

エヴィクサー株式会社

[evixar.com](#)

音響識別技術（音響電子透かし・音響フィンガープリント）を中核に放送・行政・メディア領域のコンテンツ真正性ソリューションを提供。総務省実証事業に令和6・7年度連続採択。

代表：瀧川 淳

東京都中央区新川 1-17-22 松井ビル 1 階

サイバートラスト株式会社

[cybertrust.co.jp](#)

日本初の商用電子認証局として2000年より提供している認証・セキュリティの技術を活用したトラストサービスと、Linux のカーネル技術や OSS の知見を応用したプラットフォームサービスを展開。

代表：北村 裕司

東京都港区赤坂 1-12-32 アーク森ビル 31 階